

感染症定期報告の報告状況(2006/4/1~2006/8/31)

資料No.4-1

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
1	2006/4/3	60001	わかもと製薬株式会社	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	HIV	AABB Weekly 2005; 11(42): 9	中国で、HIVと自覚していなかった41歳の男性が、2003年1月から2004年6月にかけて15回売血をし、その血液は患者25例に輸血された。そのうち約18例がHIVに感染し、うち3例が死亡した。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(49): 1253-1256	米国におけるウエストナイルウイルス(WNV)のヒト発症例は、2005年1月1日から12月1日では2744例で、42州596郡から報告された。2004年同時期の2359例より増加した。2744例中1165例(42.5%)はWNV神経侵入病で、1434例(52.2%)はWN熱であった。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada/ TMP 2006年2月10日	カナダ公衆衛生庁はインド洋南西地域のフランス領レユニオン諸島で大流行中の蚊媒介感染症であるチクングンヤウイルスを監視中である。2006年2月10日2005年3月28日から2006年1月8日の間に7138例の感染例が報告され、そのうち2147例が検査により確定された。この感染は2005年初頭にアフリカ東海岸のコモロス諸島で流行したものが広がったもので、マイヨット、モーリシャス、セイシエルでも報告されている。予防ワクチンはない。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada/ TMP 2006年2月20日	カナダ公衆衛生庁はオーストラリアで増加しているロズリパーウイルス(RRV)とバーマーフォレストウイルス(BFV)を監視中である。1月中にRRV感染は838例、BFV感染は127例と、各々、5年平均率の約4倍、2倍となった。両ウイルスとも蚊によって媒介され、ヒトからヒトへの感染はない。
2	2006/4/3	60002	わかもと製薬株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
3	2006/4/3	60003	伊藤ライフサイエンス株式会社	バルナバリンナトリウム	バルナバリンナトリウム	ブタ腸粘膜	アルゼンチン	有効成分	有	無	無	E型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(45)	英国保健省はWelsh National Public Health Serviceらと共同で、HEV流行地域への旅行に無関係なHEV感染患者の地域的、臨床的、分子疫学的特徴に関する研究を行った。1996年から2003年の間にE型肝炎と血清学的に診断された186例中、外国旅行に関係していない感染者は17例で、全て英国のブタのHEV株、遺伝子型3型に感染していた。本所見からE型肝炎はイングランドおよびウェールズに固有の型であることが示唆された。
												鳥インフルエンザ	ProMed20051224-0094	中国で30の省および自治区のうち11月中に8、12月に1の地区の家畜で鳥インフルエンザの流行が続いている。2005年に中国では21の流行があり、144624羽の鳥が死亡し、2110万羽が処分された。WHOによるとヒトへの感染は5例あり、2例が死亡した。
												感染	ProMed 20060108-0060	コンゴの西Kasai州で病死したブタを食べた80人以上が死亡した。肉不足のため、行政がこれを止めることは実質的に不可能である。汚染ブタは高熱と下痢で、数時間で死亡した。原因は不明である。
4	2006/4/5	60004	東菱薬品工業株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出物	ナプトピン「注」	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1848-1853	げっ歯類がハンタウイルスの感染源と考えられていたが、それ以外の感染ルートがあることが示唆された。2002年にアルゼンチンで発生したハンタウイルス肺症候群(HPS)の患者13例について分析した。その結果、前兆期またはその後の短期間に、ウイルスのヒトからヒトへの伝播が起こったと考えられた。
												ロタウイルス陽性	Virus Res 2005; 113: 73-80	2004年2月にハンガリーで、1つの群れのウサギ60羽が急性腸炎で死亡した。その原因を詳しく調べたところ、新しい家兎ロタウイルスP[22]が同定された。
												E型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 3042-3048	韓国でヒトから分離したHEVは、ブタのHEVと92.9-99.2%のヌクレオチド相同性があった。また日本株およびUS株とアミノ酸配列で97.9-99.6%の相同性があった。韓国の人口の11.9%は抗HEV IgGを持っていると考えられ、韓国でHEV感染が広がる可能性が示唆された。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2006; 168: 151-157	vCJD病患者の脳に蓄積する異常プリオン蛋白について、従来の抗体と、1型に特異的な新しい抗体を用いてウェスタンブロット法により検討した。その結果、2型だけでなく、1型も脳内に広く存在することが初めて明らかになった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
5	2006/4/5	60005	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン風しん混合ワクチン	SPFウズラ胚	SPF発育ウズラ卵	日本	製造工程	無	無	無			
6	2006/4/5	60006	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
7	2006/4/5	60007	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	米国、 ニュー ジーランド、 オース トラリア	製造工程	無	無	無			
8	2006/4/5	60008	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥まむし抗毒素	ウマ血清	ウマの血清	米国	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
9	2006/4/5	60009	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン風しん混合ワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシの乳	オランダ、米国、カナダ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
10	2006/4/5	60010	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
11	2006/4/5	60011	財団法人 阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	コレステロール	ヒツジの毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
12	2006/4/5	60012	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリプシン	ブタの膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
13	2006/4/5	60013	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	日本	製造工程	無	無	無			
14	2006/4/5	60014	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ブタ肉エキス	ブタの肉、脂肪	日本	製造工程	無	無	無			
15	2006/4/5	60015	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
16	2006/4/5	60016	財団法人 阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウスの脳	マウス	日本	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症 (PT)	出典	概要
17	2006/4/5	60017	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化液	ウシの筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
18	2006/4/5	60018	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	人血清アルブミン	ヒトの血液	該当なし (製造中止品目)	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月5日	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト症例2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
												鳥インフルエンザ	Nature 2006; 439: 248-249	トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。ヘムアグルチニン受容体蛋白の223位アミノ酸の置換、ポリメラーゼ蛋白の627位アミノ酸置換およびヘムアグルチニン蛋白153位アミノ酸変異である。前者はトリインフルエンザウイルスと宿主細胞表面受容体との結合に、ポリメラーゼ変異は複製に影響を与える。トルコ株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ウイルスをヒトに馴化させていると考えられる。
19	2006/4/5	60019	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	脱繊維牛血液	ウシの血液	米国、ニュージーランド (現在、種菌培養工程で米国産は使用していない)	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
20	2006/4/5	60020	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	無	無	無			
21	2006/4/5	60021	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	MRC-5	ヒト胎児肺二倍体細胞	1966年に樹立したマスタセルバンクに使用したヒトの細胞株	製造工程	無	無	無			
22	2006/4/5	60022	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥痘そうワクチン 痘そうワクチン	ウシの皮膚	ウシの皮膚	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
23	2006/4/6	60023	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウスの脳	日本	製造工程	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC Birth Defects 2005年10月5日	リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)は野生マウスによって運ばれ、ペットのげっ歯類に感染する。ヒトは感染したペットの尿、血液、唾液などから感染し、妊婦が感染した場合には胎児も感染する可能性がある。生まれる前にLCMVに感染した乳幼児は重篤な奇形を有する可能性がある。
24	2006/4/6	60024	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきワクチン 破傷風トキソイド	ペプトン	ブタの胃	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。
												日本脳炎	第9回日本ワクチン学会学術集会 /87	2004年度のヒトおよびブタにおける日本脳炎抗体保有状況を、ヒトで8都県約2000人、ブタで33都道県約4000頭を対象に調査した。その結果、現在も日本に日本脳炎ウイルスが存在していることが示された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ロタウイルス陽性	第53回日本ウイルス学会学術集会/261	2003年11月から2004年10月に岡山市内のと畜場で採取された成豚の盲腸便について、C群ロタウイルス(CRV)の有無をnested PCR法により検討した。その結果、10検体(1.5%)がCRV陽性であった。またPCR産物の塩基配列を解析したところ、Cowden株に近縁なタイプであった。
25	2006/4/6	60025	デンカ生研株式会社	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	尿膜腔液	ニワトリの受精卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2108-2112	ヒトから分離されたH5N1ウイルスHAは開裂部位に塩基性アミノ酸が連続しており、ヒトへ順化していない段階で50%以上の致死率を示す。また同ウイルスに2ヶ所のアミノ酸変異を導入するだけでヒト型受容体への親和性を獲得する。
												鳥インフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2103-2107	2003年12月から2005年5月に、トリインフルエンザA/H5N1ウイルスはベトナム、タイ、カンボジアで100人に感染し、54人が死亡した。大部分はトリからの感染であるが、ヒト-ヒト感染も報告されている。サーベイランス網構築、ワクチン開発、抗ウイルス剤備蓄などが必要である。
												鳥インフルエンザ	侵襲と免疫 2005; 14(4): 105-110	トリインフルエンザに関する総論。トリインフルエンザウイルスの構造、疫学、病原性、ヒトへの感染性、診断法、防疫法について述べている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
26	2006/4/6	60026	デンカ生研株式会社	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ヒツジ血液	ヒツジの血液	製造中止	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2006; 55(03): 65-68	2004年から2005年にかけて米国で発生したヒトにおけるオルフウイルス感染4例についての報告。オルフウイルスはヒツジやヤギなどの小型反芻動物と関係する人畜共通感染症で、接触後に潰瘍性皮膚病変が起こる。医師の認識不足のため、診断の遅れや不必要な抗生物質の使用がみられる。オルフウイルス感染症の危険性や予防に関する認識を広める必要がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
27	2006/4/6	60027	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 破傷風トキソイド	ハートエキス	ウシの心臓	ニュージラント	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
28	2006/4/6	60028	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン ジフテリアトキソイド 破傷風トキソイド コレラワクチン	スキムミルク	ウシの乳	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
29	2006/4/6	60029	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド	カザミノ酸	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
30	2006/4/6	60030	デンカ生研株式会社	ワイル病秋やみ混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	中国又はポーランド	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
31	2006/4/6	60031	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
32	2006/4/6	60032	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県の上野地区において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)O121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC O121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
33	2006/4/6	60033	デンカ生研株式会社	ウイルス病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギの血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
34	2006/4/6	60034	デンカ生研株式会社	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県の上野地区において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)O121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC O121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
35	2006/4/6	60035	日本メジック株式会社	診断薬	テクネチウム大凝集人血清アルブミン	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。
36	2006/4/7	60036	三共株式会社	トロンビン	トロンビン	牛の血漿及び肺	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
37	2006/4/7	60037	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ウシ血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
38	2006/4/7	60038	武田薬品工業株式会社	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウサギ腎細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
39	2006/4/7	60039	テルモ株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分	無	無	無			
40	2006/4/10	60040	日本赤十字社	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルティニク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。
												デング熱	Blood 2005; 106(11): Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBc抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植をうけた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
41	2006/4/10	60041	沢井製薬株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	寄生虫感染	第37回日本小児感染症学会総会・学術大会 2005年11月11-12日	平成16年8月に長野県での水泳合宿で、千葉県の子童45例がクリプトスポリジウム感染と診断された。感染者が使用した千葉県のプールから同菌が検出され、2例が発症した。プールを介しての2次感染が起こったと考えられた。プールが感染経路と考えられる日本で初めての報告である。
42	2006/4/10	60042	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	血液凝固第Ⅲ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
43	2006/4/10	60043	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国、フランス、アメリカ、カナダ	製造工程	無	無	無			
44	2006/4/11	60044	財団法人化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アポセルロプラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
45	2006/4/11	60045	財団法人化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	パンクレアチン	ブタ膵臓	カナダ・イタリア・アメリカ	製造工程	無	無	無			
46	2006/4/11	60046	財団法人化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	血液	ウシ血液	日本	製造工程	無	無	無			
47	2006/4/12	60047	宇治製薬株式会社	コンドロイチン硫酸鉄コロイド	コンドロイチン硫酸ナトリウム	牛の軟骨	米国		無	無	有			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
48	2006/4/13	60048	サノフィバ スツール 第一ワク チン株式 会社	黄熱ワクチン	発育鶏胚	発育鶏卵	米国	製造工程	無	無	無			
49	2006/4/13	60049	小林化工 株式会社	コンドロイチン硫酸ナトリウム・ サリチル酸ナトリウム	コンドロイチ ン硫酸ナトリ ウム	ウシの軟骨	アメリカ	有効成分	無	無	無			
50	2006/4/14	60050	社団法人 北里研究 所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワク チン	トリプシン	ブタ臓臓	米国、カナ ダ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエン ザ	J Virol 2005; 79: 10821-10825	2004年にベトナムのブタにおいてH5N1型トリインフルエンザウイルスに 関する血清学的検査を行った。ブタ血清3175例中、8例(0.25%)が陽性で あった。2004年アジアH5N1型ウイルスのブタでの感染実験の結果、ブ ターブタ間の伝播は簡単には起こらないことが示された。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの 糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺 伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定 された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連 性があった。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5963- 5972	ブタサボウイルス(SaV)の遺伝的多様性を調べるため、1999年から 2003年に米国のブタ農場で採取したブタ糞便から検出した9例のブタ SaVIについてヌクレオチド配列を詳細に調べた。その結果、新しいゲノ グループを同定し、組み換え型を同定した。ブタSaVがヒトSaVと遺伝的に 近い関係にあることを初めて報告した。
51	2006/4/14	60051	社団法人 北里研究 所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初 代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	有	無	無	細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで 74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者 は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水 腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウ サギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈 弁切片のPCRにより同定された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
52	2006/4/14	60052	富士製薬工業株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	妊婦の尿抽出物	中国、ブラジル	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月27日	中国におけるトリインフルエンザの近況。中国保健省はH5N1型トリインフルエンザウイルス感染と新たに確定診断されたヒト2例を報告した。2例とも危篤状態である。
												ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日目の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
53	2006/4/14	60053	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	ニュージーランド、米国、オーストラリア	有効成分	有	無	無	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
54	2006/4/14	60054	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ又はブタの肺	ウシ：ニュージーランド、ブタ：デンマーク	製造工程	有	無	無	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
55	2006/4/14	60055	シオノケミカル	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	有	無	無	細菌感染	Pediatr Infect Dis J 2005; 24: 1099-1103	新生児集中治療室(NICU)で発生したRalstonia pickettii菌血症患者18例について、非感染のNICU乳幼児を対照として、比較検討試験を行った。統計的に有意な危険因子は示されなかったが、感染群は全員、病院の薬局で調剤されたヘパリン灌流を受けていた。
												細菌感染	J Hosp Infect 2006; 62: 250-251	ヘパリンの静脈内注入に関連したAgrobacterium tumefaciensによる菌血症3例を報告した。患者から分離された菌は異なった株であった。全例ともカニューレをはずすことで症状は回復した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
56	2006/4/17	60056	サノフィ・アベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			
57	2006/4/17	60057	サノフィ・アベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	ウマ血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
58	2006/4/17	60058	サノフィ・アベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア、リトアニア、ポーランド、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、スロバキア、チェコ共和国	製造工程	無	無	無			
59	2006/4/18	60059	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	マウスモノクローナル抗体	マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞のハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	無			
60	2006/4/18	60060	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	ヤギIgG	ヤギ血液	米国、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
61	2006/4/18	60061	株式会社ベネシス	乾燥抗HBs人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理 抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キャサナル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミューールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Votens des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
62	2006/4/19	60062	財団法人 化学及血 清療法研 究所	人免疫グロブリン ヒスタミン加人免疫グロブリン 製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイル ウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648- 1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したトガが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。
												ウエストナイル ウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイル ス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
63	2006/4/20	60063	三共株式 会社	トロンビン	トロンビン	牛の血漿及 び肺	ニュー ジーランド	有効成分	無	無	無			
64	2006/4/20	60064	ZLBベ リング株 式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ヒトアルブ ミン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	添加物	有	無	無	バルボウイル ス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
65	2006/4/20	60065	ZLBベ リング株 式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	アプロチニン	ウシ肺	ウルグア イ、ニュー ジーランド	有効成分	無	無	無			
66	2006/4/20	60066	ZLBベ リング株 式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	アンチトロン ビンⅢ	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	製造工程	有	無	無	バルボウイル ス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
67	2006/4/20	60067	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ウマコラーゲン	ウマアキレス腱	フランス、ドイツ、ベルギー、イタリア	支持体	無	無	無			
68	2006/4/20	60068	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	トロンビン画分	ウシ血液	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
69	2006/4/20	60069	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	トロンボプラスチン	ウサギ脳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
70	2006/4/20	60070	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
71	2006/4/20	60071	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ヒトフィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無	バルボウィルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウィルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
72	2006/4/20	60072	日立化成工業株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	レプトスピラ症	第88回日本細菌学会関東支部総会	動物取り扱い業者の従業員2名がレプトスピラ症と診断され、原因究明を行った。その結果、アメリカモモンガが感染源であった。分離株は Leptospira kirschneri serovar Grippotyphosaと同定された。
												鳥インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2005年第51週、52週合併号: 15-16	WHO/CSR 2006年1月5日の報告。トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
												寄生虫感染	第37回日本小児感染症学会総会・学術大会 2005年11月11-12日	平成16年8月に長野県での水泳谷宿で、千葉県の子童45例がクリプトスポリジウム感染と診断された。感染者が使用した千葉県のプールから同菌が検出され、2例が発症した。プールを介しての2次感染が起ったと考えられた。プールが感染経路と考えられる日本で初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第2週: 17-18	Nature 2006; 439: 248-249の報告。トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。トルコの株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ヒトに感染しやすくなっている。
												鳥インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第3週: 13	2006年2月2日にWHOが発表した、2003年から2006年までのアジアにおけるヒトでのH5N1亜型トリインフルエンザの国別確定症例数および死亡例数を掲載している。感染地域が徐々に拡大している。WHOは現在のパンデミック警戒レベルをフェーズ3としている。
												インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第4週: 5-7	日本におけるインフルエンザの定点当たり報告数は全国レベルで32.4(報告数151,878)となり、増加が続いている。分離報告の99.7%がA型であり、その多くがAH3型である。インフルエンザの流行は西日本から東日本に広がりつつあり、引き続き注意が必要である。
												細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 6020-6026	ザンビアで2週間以上、結核の症状を呈した213例の患者(69%がHIV陽性)の喀痰を検査したところ非結核性マイコバクテリア(NTM)が90例から分離された。無菌部位からの検体25例中8例がNTM陽性であったが、このうち4例からMycobacterium lentiflavumが、1例からMycobacterium goodiiが分離された。両菌の感染がアフリカで示された初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	感染症雑誌 2006; 80: 56-57	平成17年8月24日から28日までプエルトリコ、その後ロサンゼルスへ出張し、9月4日に帰国した30歳男性が、発熱、頭痛、両上下肢に紅斑丘疹を呈した。日本脳炎HI抗体が高値であったためウエストナイル(WN)ウイルス感染を疑い血清・病原体検査したところ、IgM捕捉ELISAと中和抗体検査が陽性であり、WN熱と確定診断した。
												レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第10週: 5-7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は日本では例年冬季から夏季にかけて報告数の増加がみられる。感染症動向調査によれば、2006年は1996年以降の過去10年間と比較して、報告が最も多い状態が続いている。
												感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第11週: 3	日本における2006年第11週(3月23日集計分)の5類感染症の定点把握結果を報告した。小児科では咽頭結膜熱が第5週以降、増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。マイコプラズマ肺炎は増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。
73	2006/4/20	60073	日立化成工業株式会社		アレルギー性疾患患者から抽出、精製した抗アレルギー物質	ヒト尿	日本	有効成分	有	無	無	細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 6020-6026	ザンビアで2週間以上、結核の症状を呈した213例の患者(69%がHIV陽性)の喀痰を検査したところ非結核性マイコバクテリア(NTM)が90例から分離された。無菌部位からの検体25例中8例がNTM陽性であったが、このうち4例からMycobacterium lentiflavumが、1例からMycobacterium goodiiが分離された。両菌の感染がアフリカで示された初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	感染症学雑誌 2006; 80: 56-57	平成17年8月24日から28日までブルトルコ、その後ロサンゼルスへ出張し、9月4日に帰国した30歳男性が、発熱、頭痛、両上下肢に紅斑丘疹を呈した。日本脳炎HI抗体が高値であったためウエストナイル(WN)ウイルス感染を疑い血清・病原体検査したところ、IgM捕捉ELISAと中和抗体検査が陽性であり、WN熱と確定診断した。
												レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第10週 5-7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は日本では例年冬季から夏季にかけて報告数の増加がみられる。感染症動向調査によれば、2006年は1996年以降の過去10年間と比較して、報告が最も多い状態が続いている。
												感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第11週 3	日本における2006年第11週(3月23日集計分)の5類感染症の定点把握結果を報告した。小児科では咽頭結膜熱が第5週以降、増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。マイコプラズマ肺炎は増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。
74	2006/4/21	60074	第一アスピオファーマ株式会社	インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	感染	ProMed20051030-0050	ナイジェリアJigawa州で原因不明の疾患により54人もの小児が死亡し、数人が危篤である。この奇病は、高熱で始まり、2-5歳の小児が感染する。最初、発疹が現れ、まもなく死亡する。現地の医療当局は調査を開始した。
												鳥インフルエンザ	ProMed20060217-0090	2003年にアジアでトリインフルエンザが広がり始めて以来、25家族の感染が報告されている。兄弟、親子などの血縁が関係する場合が圧倒的多数で、夫婦とも陽性だったのは3家族に過ぎない。同じように感染した鳥に暴露しても発病率に差があることから、遺伝的に感受性の高いヒトがいる可能性がある。しかし、感受性を遺伝子に結論付けるには時期尚早である。
												感染	ProMed20060322-0040	アンゴラHuambo州Tcholindi村で原因不明の疾患により10人が死亡した。患者は、まず脚が冒され、次に腸に広がり、1週間以内に死亡する。公衆衛生の専門家が近いうちに現地調査をする予定である。
75	2006/4/21	60075	東菱薬品工業株式会社	パトロキソピン	パトロキソピン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
76	2006/4/21	60076	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	マウス由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	無	無	無			
77	2006/4/21	60077	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	インスリン	ウシ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
78	2006/4/21	60078	バイエル薬品株式会社	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国	有効成分	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイパー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画Ⅱ+Ⅲから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロプを持つウイルスだけでなく、エンベロプを持たないウイルスも高率に除去された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{Sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。
79	2006/4/21	60079	バイエル薬品株式会社	オクトグアルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ臍臓	米国	製造工程	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency HP 2006年3月3日	2006年1月12日、カナダのアルバータで異常な運動と姿勢を呈した69月齢のウシがBSEと診断された。カナダにおける4例目のBSE報告である。2003年以来88,000以上の検査が行われ、陽性例は4例しかないことから、カナダでのBSE発生率は極めて低いと考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
80	2006/4/21	60080	ハイエル薬品株式会社	人血清アルブミン オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	有効成分製造工程	有	有	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロプを持つウイルスだけでなく、エンベロプを持たないウイルスも高率に除去された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトTリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
81	2006/4/21	60081	バイエル薬品株式会社	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペブシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロップを持つウイルスだけでなく、エンベロップを持たないウイルスも高率に除去された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{Sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトTリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
82	2006/4/21	60082	ハイエル薬品株式会社	加熱人血漿たん白 オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	有効成分製造工程	有	有	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロップを持つウイルスだけでなく、エンベロップを持たないウイルスも高率に除去された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。
83	2006/4/21	60083	バクスター株式会社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
84	2006/4/21	60084	日本化薬株式会社	BCG・コンノート株	乾燥BCG膀胱内用(コンノート株)	牛型結核菌	カナダ	有効成分	無	無	無			
85	2006/4/21	60085	中外製薬株式会社	トシリズマブ(遺伝子組み換え)	ガラクトース	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
86	2006/4/21	60086	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ブタラードウォーター	ブタ脂肪	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
87	2006/4/21	60087	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ペプシン	ブタ胃液	不明	製造工程	無	無	無			
88	2006/4/21	60088	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	プリマトンHS/UF	ウシ脾臓、心臓、ウマ脾臓、脛肉	ウシ: 米国、ウマ: 米国、カナダ、ブタ: 米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
89	2006/4/21	60089	中外製薬株式会社	1.トラスツズマブ(遺伝子組換え) 3. ストレプトコックスピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	パンクレアチン	ブタ膵臓	1米国、カナダ 3、日本、米国、カナダ、フランス	製造工程	無	無	無			
90	2006/4/21	60090	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え) レノグラスチム(遺伝子組換え) エボエチンペータ(遺伝子組換え) トシリズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巢細胞	チャイニーズハムスター卵巢	不明	製造工程	無	無	無			
91	2006/4/21	60091	中外製薬株式会社	レノグラスチム(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血漿	不明	製造工程	無	無	無			
92	2006/4/21	60092	中外製薬株式会社	レノグラスチム(遺伝子組換え) エボエチンペータ(遺伝子組換え)	ブタインスリン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
93	2006/4/21	60093	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
94	2006/4/21	60094	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンベータ(遺伝子組換え)	DMEM/F12	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
95	2006/4/24	60095	武田薬品工業株式会社	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
96	2006/4/24	60096	武田薬品工業株式会社	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	E型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(30)	2004年に英国の国立血液サービス・保健省感染症センターの感染症サーベイランスに報告された輸血伝播性感染と疑われた症例は34例であった。そのうちE型肝炎1例のみが輸血を介して伝播した感染と確定された。ドナーが献血23日後に黄疸を発症し、保管サンプルで、HEV RNA陽性を確認した。赤血球輸血を受けたレシピエント(男, 65才)は2ヵ月後にHEV RNAとHEV IgMが陽性であった。解析の結果、ドナーとレシピエントのウイルスは同一であることが示された。
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 451-459	2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 460-467	米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	カナダ Canadian Blood Services	2005年8月15日、カナダ血液サービスは、英国やフランスなどの最新のセーフガード情報に基づき、vCJDに関連した供給停止措置の変更を行った。また刺青やピアスをしている人などに対する一時的供血停止の変更を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えたと予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
97	2006/4/24	60097	日本製薬株式会社	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005 ;11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えたと予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
												伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
98	2006/4/24	60098	日本製薬株式会社	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005 ;11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
												伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
99	2006/4/24	60099	沢井製薬株式会社	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
100	2006/4/25	60100	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	加熱人血漿たん白	人血液	米国	添加物	無	無	無			
101	2006/4/25	60101	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	鶏卵由来成分	鶏卵		製造工程	無	無	無			
102	2006/4/25	60102	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ウシ血清由来成分	ウシ血液	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
103	2006/4/25	60103	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
104	2006/4/25	60104	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ヒツジ血清由来成分	ヒツジ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
105	2006/4/25	60105	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ヒトリンパ芽球細胞樹立株ナマルバ細胞	ヒト細胞		製造工程	無	無	無			
106	2006/4/25	60106	日本メジック株式会社	人血清アルブミンジェチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	人血清アルブミンジェチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
107	2006/4/26	60107	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ球免疫ウサギ血清	ドイツ、ハンガリー	有効成分	無	無	無			
108	2006/4/26	60108	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ球(JM細胞株)	ヒト(急性リンパ性白血病患者)末梢血	ドイツ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
109	2006/4/26	60109	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト赤血球	ヒト血液	ドイツ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
110	2006/4/26	60110	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト胎盤ホモジネート	ヒト胎盤	ドイツ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
111	2006/4/26	60111	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ乳児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
112	2006/4/26	60112	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
113	2006/4/26	60113	ゼローノ・ジャパン株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(39) 2005年9月30日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 18。今回報告終了日-2005年9月28日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-Colorado州Alamosa郡, Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日~2005年9月16日):ウマにおいて疑い例10例, 症例1例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例。-Montana州Carbon郡, Stillwater郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年8月28日~2005年9月14日):ウマにおいて疑い例9例, 症例6例, ヤギにおいて疑い例2例。-Wyoming州Big Horn郡, Fremont郡, Goshen郡, Hot Springs郡, Park郡, Platte郡, Sublette郡, Washakie郡の農場(15件)(アウトブレイクの開始日2005年8月21日~2005年9月15日):ウマにおいて疑い例84例, 症例15例, ウシにおいて疑い例855例, 症例7例, ヤギにおいて疑い例2例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(40) 2005年10月7日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 19。今回報告終了日ー2005年10月2日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細ーColorado州Delta郡, Mesa郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月5日, 2005年9月19日):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例30例, 症例1例ーIdaho州Bear Lake郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月16日):ウマにおいて疑い例14例, 症例2例, ウシにおいて疑い例360例ーUtah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日):ウマにおいて疑い例7例, 症例1例ーWyoming州Bighorn郡, Carbon郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡, Platte郡の農場(13件)(アウトブレイクの開始日2005年9月12日~2005年9月24日):ウマにおいて疑い例393例, 症例15例, ウシにおいて疑い例2100例, 症例5例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED 2005年10月7日	2005年10月4日, ニューヨーク州Plum Islandの外来性動物疾患診断研究所は, ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある施設で飼育されていたウシ3頭で, 初の水疱性口内炎New Jersey 株(VS-NJ)感染症例を確認した。VS-NJウイルスは, 発病した成牛3頭からの検体から分離された。これらの個体は, 2005年ネブラスカ州で最初の水疱性口内炎症例である。加えて10月5日に, アイオワ州Amesの国立獣医学研究所は, ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある別の施設で飼育されていたウマについて, ウイルス分離により水疱性口内炎と診断確定した。問題の2施設は同じScotts Bluff郡内にあるが, それぞれは約24マイル離れている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(41) 2005年10月14日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 20。今回報告終了日ー2005年10月9日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細ーColorado州Mesa郡, Montezuma郡, Ouray郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月18日, 2005年9月25日):ウマにおいて疑い例9例, 症例5例, ウシにおいて疑い例120例, 症例1例。Colorado州Big Horn郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月25日, 2005年9月28日):ウマにおいて疑い例48例, 症例5例。ーNebraska州Scotts Bluff郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月29日, 2005年9月30日):ウマにおいて疑い例6例, 症例1例, ウシにおいて疑い例61例, 症例3例。ーUtah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月23日):ウシにおいて疑い例8例, 症例3例。ーWyoming州Bighorn郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡の農場(11件)(アウトブレイクの開始日2005年8月15日~2005年10月1日):ウマにおいて疑い例83例, 症例11例, ウシにおいて疑い例208例, 症例4例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(42) 2005年10月21日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 21。今回報告終了日ー2005年10月16日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクーWyoming州Bighorn郡Lovellの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月9日):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例。ーWyoming州Carbon郡Encampmentの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月4日):ウマにおいて疑い例5例, 症例1例。ーWyoming州Fremont郡Rivertonの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月29日):ウマにおいて疑い例3例, 症例1例。ーWyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月29日):ウシにおいて疑い例100例, 症例1例。ーWyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月30日):ウシにおいて疑い例37例, 症例2例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(43) 2005年10月28日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 22: 今回報告終了日ー2005年10月23日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。アウトブレイクの初回確定日ー2005年4月27日。アウトブレイクの開始日ー2005年4月16日。新規アウトブレイクーColorado州Delta郡Delta, Mesa郡Grand Junction, Montezuma郡Cortezの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月1日, 2005年10月5日): ウマにおいて疑い例7例, 症例2例, ウシにおいて疑い例55例, 症例1例。ーIdaho州Caribou郡Graceの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月9日): ウマにおいて疑い例9例, 症例4例。ーMontana州Big Horn郡St. Xavierの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月6日): ウマにおいて疑い例2例, ウシにおいて疑い例27例, 症例4例, ヒツジにおいて疑い例37例, ヤギにおいて疑い例1例。ーUtah州Summit郡Oakleyの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月8日): ウマにおいて疑い例5例, 症例1例, ウシにおいて疑い例12例。ーWyoming州Big Horn郡Hyattville, Campbell郡Gillette, Carbon郡Encampment, Fremont郡のPavillion農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年9月24日~2005年10月10日): ウマにおいて疑い例23例, 症例4例, ウシにおいて疑い例350例, 症例2例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(44) 2005年10月30日	米国における水疱性口内炎ーFollow-up report No. 23: 今回報告終了日ー2005年10月30日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクーColorado州Delta郡Crawford, Mesa郡Grand Junctionの農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月17日, 2005年10月28日): ウシにおいて疑い例31例, 症例2例, ウマにおいて疑い例10例, 症例1例。ーNebraska州Scotts Bluff郡Lymanの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月12日): ウシにおいて疑い例16例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例251例。ーUtah州Box Elder郡Park Valleyの農場, Duchesne郡Bluebell農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月20日, 2005年10月18日): ウマにおいて疑い例23例, 症例8例, ウシにおいて疑い例3例, ブタにおいて疑い例12例。ーWyoming州Big Horn郡Burlington, Carbon郡Encampment, Sweetwater郡McKinnenの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月12日~2005年10月16日): ウマにおいて疑い例58例, 症例2例, ウシにおいて疑い例470例, 症例8例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(46) 2005年11月18日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 24: 今回報告終了日—2005年11月13日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Eagle郡Burns, Garfield郡Rifle, Mesa郡Collbran, De Beque, Grand Junction, Montezuma郡Dolores, Ouray郡Ridgewayの農場(8件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日, 10月21日, 10月22日, 10月25日, 10月27日, 10月30日): ウシにおいて疑い例719例, 症例4例, ウマにおいて疑い例43例, 症例5例。—Montana州Big Horn郡Hardinの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日): ウシにおいて疑い例200例, 症例4例。—Wyoming州Natrona郡Casperの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月30日): ウマにおいて疑い例10例, 症例2例。—Wyoming州Park郡Powellの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月7日): ウシにおいて疑い例100例, 症例5例, ウマにおいて疑い例1例, 症例0例。—Wyoming州Sweetwater郡McKinnenの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月10日): ウシにおいて疑い例500例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(49) 2005年12月9日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 25: 今回報告終了日—2005年12月4日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例5例, 症例1例。—Colorado州Montrose郡Olatheの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月15日): ウマにおいて疑い例3例, ウシにおいて疑い例10例, 症例1例。—Wyoming州Johnson郡Kayceeの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月1日): ウマにおいて疑い例6例, ウシにおいて疑い例18例, 症例1例, ヒソジにおいて疑い例4例。—Wyoming州Natrona郡Evansvilleの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月6日): ウシにおいて疑い例47例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 27: 今回報告終了日—2005年12月31日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例222例, 症例3例。
												結核	ProMED20060201-0040	米国農務省USDAは、症例確認を受けて、ミネソタ州を家畜(ウシ)に結核の存在しない(TB-free)州の地位から降格させる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	カナダ Public Health Agency 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はカナダのウシにおける5例目のBSE症例を確認した。この発見により、カナダにおけるヒトの健康に対する新たなリスクはもたらされていない。vCJDに関するQ&Aとして、ヒトの健康に対するリスク、将来的にカナダにおいてvCJD症例は発生するか、マウスの臓器内でプリオンが確認された最近の研究がヒトの健康に関して意味するもの、などが記載されている。
												BSE	ProMED20060124-0040	カナダ食品監視局(CFIA)は1月23日、Albertaで産まれ育った6才雑種雌牛が狂牛病であることを確認した。当該牛のいかなる部分も食品や他の動物の餌にはなっていない。このウシは国家サーベイランスプログラムにより発見された。同プログラムにより2003年の第1例以来87000頭以上の牛が検査された。
												BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンプロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告では、米国産牛肉は非常に安全であることが強調された。
												BSE	FDA Statement 2006年3月13日	BSEの陽性の検査結果についての米国農務省(USDA)の発表に関する米FDAの声明。2006年3月13日の米国農務省(USDA)によるBSE陽性ウシの発見確定を受け、FDAは連邦当局および州当局と共同で、このウシが摂取した飼料の由来を調査している。USDAはこのウシが飼料もしくはヒトの食糧供給に入っていないことも確認したこと、最近FDAはヒトの食品および化粧品におけるウシの特定部分の使用を禁止する予防策を追加したことなどについて記載されている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	OIE Disease Information 19(11) 2006年3月16日	米国におけるBSE: (米国における前回のBSEのアウトブレイクがOIEに報告された日時: 2004年11月, および確定された日時: 2005年6月) 今回報告日-2006年3月13日。アウトブレイクの初回確定日-2006年3月13日。アウトブレイクの開始日-2006年2月27日。アウトブレイクの詳細-Alabama州の農場(アウトブレイクの開始日2006年2月27日): ウシにおいて疑い例50例, 症例1例, 処分1例。感染群-約50頭の肉用ウシおよび子ウシの群の肉用ウシ1頭(10才以上)。アウトブレイクの原因/感染源-不明もしくは結論に到達していない。その他の詳細/コメント-米国において報告されたBSEの2例目の確定例であることなど。
114	2006/4/26	60114	セローノ・ジャパン株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	カナダ Public Health Agency of Canada/ Infectious Diseases News Brief 2005年10月28日	2005年10月24日, 保健局のCentre for Health Protection (CHP) は Streptococcus suisの検査確定に関する報告を受けた。症例は2005年にStreptococcus suisに感染した, 香港における12例目の症例である。症例は43才男性で, 最近の旅行はなく, 2005年10月13日に入院し, 同じ日に死亡した。症例の家族は医学的観察下におかれている。CHP職員は追加情報の為に, 症例の家族および病院スタッフとの連絡を続けていく。Streptococcus suis感染症は中国本土において約40名を死に至らしめている。
												細菌感染	ProMED20051015-0040	中国衛生部はコレラ患者の増加に対し, 警告を発した。中国では2005年6月から9月の間に638人のコレラ患者の報告を受け, そのほとんどは福建省と浙江省であった。
												デング熱	ProMED20051106-0080	中国(香港)の健康保護センターは, 50才女性の新たなデング熱輸入患者を確認したことを受けて, 市民にデング熱の感染予防を呼びかけている。女性患者は, 10月15日に発症した際, バングラデシュ滞在中であった。2005年の香港でのデング熱患者数は23名となり, 全例が輸入患者である。
												デング熱	ProMED20060119-0100	中国(香港)の健康保護センターは, 2006年, 2例目のデング熱輸入患者を確認した。症例は22才の男性で, 最近インドネシアに旅行している。(情報源: News.gov.hk, 2006年1月11日)
												デング熱	ProMED20060128-0020	中国(香港)の健康保護センター当局は, Siu Sai Wan在住の29才女性のデング熱感染を確認したが, 今回の患者発生により, 2006年の合計患者数は3名となった。全て輸入例である。患者は, 2005年12月21日から2006年1月1日までインドネシアを旅行した後, 1月3日に発症した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED20060305-0130	香港で、1月27日から30日にタイに滞在した48才の女性が、2月4日にデング熱を発症、9日に入院、15日に退院した。2006年の患者は4例で、全て輸入例である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	トリインフルエンザ(update 41): 中国衛生省は同国における初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染症ヒト症例2例を確認した。1例目はHunan省の9才の少年で、2005年10月17日に呼吸器症状により入院し、完全に回復し、帰宅している。2例目はAnhui省の家禽農場労働者の24才女性で、2005年11月1日に発症、11月7日に重度の肺炎により入院、11月10日に死亡した。さらに、ヒト疑似症例2例がHunan省において調査されている。中国におけるヒト症例に対するサーベイランスは、家禽における家禽における高病原性H5N1トリインフルエンザの再発を受け、先月から強化された2005年10月19日以来、中国は6省におけるアウトブレイク11件を報告している。(ヒト)確定例がみられたHunan省およびAnhui省は、最近感染が起こった省に含まれている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月24日	トリインフルエンザ(update 42): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(3例目)を確認した。死亡した症例はAnhui省において農業従事者として労働していた35才の女性で、2005年11月11日に発症、11月15日に入院そして11月22日に死亡した。この症例は中国における3例目の検査確定症例(2例が死亡)で、Anhui省においては2例目である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月7日	トリインフルエンザ(update 46): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(4例目)を確認した。症例は、Guangxi省の10才の少女で、2005年11月23日に発熱および咳の症状を発症し、その後肺炎となり、依然として入院中である。地元保健当局は暴露原因を確定するため、および患者の住んでいた村および近隣地域における追加症例の捜索のために調査を開始した。現在のところ、インフルエンザ様疾患の追加症例は明らかとなっていない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月9日	トリインフルエンザ(update 47): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(5例目)を確認した。症例は中国北東部のLiaoning省の31才の農婦で、2005年10月30日に発症し、その後重症肺炎と急性呼吸窮迫により病院の集中治療室に収容された。症例は回復し、11月29日に退院した。この症例の初期検査はH5ウイルスサブタイプに対する感染は陰性であったが、microneutralization法による抗体検査により、発症後期に確定診断された。2005年10月末より、Liaoning省では家禽における高病原性H5N1トリインフルエンザのアウトブレイクが数回報告されている。調査の結果、この症例の感染は、発病した家禽との直接的暴露との関連が示された。農業当局は同省での家禽からH5N1ウイルスを検出している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月16日	トリインフルエンザ(update 49): 中国衛生省はさらに1例のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は南東部のJiangxi省在住の35才男性である。男性は12月4日に熱の症状を呈し、その後肺炎になった。現在も入院中であり、集中ケアを受けている。農業当局は患者の住居の近くにいたアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認している。この症例は中国における第6番目の検査確定症例である。そのうち2例が死亡している。現在までに、中国は5つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi)から症例を報告している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月30日	トリインフルエンザ(update 51): 中国衛生省は中国本土においてH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は南東部のFujian省在住の41才女性で、2005年12月6日に熱とそれに続く肺炎の症状を発症し、2日後に入院し、12月21日に死亡した。12月13日、患者からの検体に関する初期検査はH5N1陰性であったが、12月23日の更なる検査で陽性を示した。患者からウイルスも分離された。医学的監視下に置かれている密接な接触者はいかなる症状も示していないと衛生当局は報告している。農業当局は現在までに、患者の住居や仕事場の周辺の家畜においてH5ウイルスサブタイプの存在を確認できていない。調査員は発症する前の、患者と家禽の直接的な接触を確認できていない。この症例は中国における7例目の検査確定症例で、これらの症例のうち3例(本症例を含む)が死亡している。現在までに、中国は6つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian)から症例を報告している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月10日	中国におけるトリインフルエンザの状況：中国衛生省は中国で8例目のH5N1トリインフルエンザウイルス感染症のヒト症例を確認した。症例は南部のHunan省出身の6才の男児で、2005年12月24日に熱と肺炎を発症し、現在入院中で症状は安定している。中国当局は以前に公表された症例2例がその後死亡したことも報告した。症例は12月7日に報告されたGuangxi自治区の10才の少女と12月16日に報告されたJiangxi省の35才の男性である。中国における確定症例8例のうち現在5例が死亡している。新規確定症例の初期調査により、家庭で飼育していた家禽の死亡が暴露原因である可能性があると示唆されたが、この地域における家禽のアウトブレイクは公式には報告されていない。密接な接触者は医学的監視下におかれているが、現在のところ、症状を示しているヒトはいない。この症例はHunan省での2例目の症例である。先に報告された同省の症例は、2005年11月中旬に中国で最初に報告された2例のうちの1例であるが、今回の症例とは約300km離れたところに住んでいる。Hunan省に加え、H5N1感染症ヒト症例を報告している省・自治区はAnhui, Guangxi, Liaoning, JiangxiおよびFujianである。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update)：中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は中国中南部のSichuan省在住の35才女性で、家禽の屠殺に従事していた。症例は2006年1月3日に発症、1月10日に発熱と肺炎の症状のため入院し、1月11日に死亡した。症例が屠殺作業中に感染したのか、住んでいる村において感染した鳥類への直接的暴露の結果として感染したのかどうかを決定するための詳細調査が実施されている。症例は、密接した住居に8組の家族が居住している住宅に住んでいた。これらの家族メンバーおよび他の密接な接触者が医学的監視下に置かれている。インフルエンザ様疾病の症状は現在のところ報告されていない。この新規確定症例は中国におけるこの症例は中国における9例目の検査確定症例で、これらの症例のうち6例が死亡している。7つの省・自治区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, HunanおよびSichuan)において症例が発生している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月25日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update2): 中国衛生省は、同国で10例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は、南中央部のSichuan省、Chengdu市の29才女性で、2006年1月12日に発熱し、肺炎症状で入院したが、急速に悪化し、23日に死亡した。感染源として病気のトリへ暴露した可能性に関する情報は現在のところないが、調査が実施中である。これは今年(2006年)に中国において報告された2例目の症例(いずれもSichuan省から)である。このSichuan省の2症例は、約150km離れた異なる県において発生していた。Sichuan省の他の地方では、家禽におけるH5N1アウトブレイクが、2005年12月下旬に開始していた。2症例が居住する地域におけるアウトブレイクは確認されていない。中国において確認された10例のうち、7例が死亡している。7つの省および地区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, Hunan, およびSichuan)において症例が発生している。うち2省では家禽におけるアウトブレイクは公式に報告されていない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update3): 中国衛生省は同国で11例目となる検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症例1例を報告している。症例は中国南東部のFujian省出身の26才農婦で、2006年1月10日に発症し、その後肺炎で入院し、現在も安定した状態で治療中である。中国におけるほかの多くの症例と同様に、この症例は家禽における最近のアウトブレイクが公式に報告されていない地域において発生した。中国における検査確定症例11例のうち、7例が死亡している。症例は7つの省および地域で発生している(Anhui, Fujian, Guangxi, Jiangxi, Hunan, LiaoningおよびSichuan)。散発的なヒト症例が継続しておこっていることは、少なくとも中国の特定の場所でウイルスがトリの間で循環していることを示している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月13日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update4): 中国衛生省は同国で12例目となるH5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症の検査確定例1例を報告している。症例は中国南中央部のHunan省出身の20才の農業従事者の女性で、2006年1月27日に発症し、その後重度の肺炎で入院した。家庭で飼育している家禽の処分後に発症した。症例は2月4日に死亡した。これまでに中国は12例の検査確定症例を報告しており、そのうち8例が死亡した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update5): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例2例(13例目、14例目)を報告した。両症例とも重体である。1例目は中国東部のZhejiang省の9才の女兒で、2006年2月10日に発症した。隣接するAnhui省の親戚を訪問した後に発症した。2004年以来、Zhejiang省において動物のアウトブレイクは報告されていない。2例目はAnhui省の26才の農婦で、病気の家禽と接触した後に、2006年2月11日に発症した。地域の農業当局が女性の近所で死亡した家禽からの検体においてH5N1ウイルスが単離されたことを報告している。これまでに、中国は検査確定症例14例を報告しており、そのうち8例が死亡している。H5N1ウイルスは今や中国の多くの地域の鳥類に蔓延していると考えられる。WHOは中国当局と協力し、トリインフルエンザに対する一般市民の意識を向上させ、人々にアウトブレイクの報告を促し、死亡した、あるいは病気の鳥類との接触を避けるように人々に警告している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update7): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における10例目の死亡症例を報告した。症例は中国東部のZhejiang省の9才の女兒で、2006年2月10日に発症し3月6日に死亡した。この症例は2006年2月27日に中国当局によりすでに告知されており、その際には症例は重体であるとされていた(13例目)。現在のところ中国は検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症症例15例を報告しており、そのうち10例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月6日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update6): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例1例を報告した。症例は中国南部のGuangdong省の32才の男性で、2006年2月22日に発熱を発症し、肺炎となった。症状は急速に悪化し、3月2日に死亡した。男性は無職であった。2004年以来、Guangdong省において家禽におけるアウトブレイクは報告されていない。これまでに、中国は検査確定症例15例を報告しており、そのうち9例が死亡している。2例が依然として重体にある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月24日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update8):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における16例目の症例を報告した。症例は死亡症例で、29才の出稼ぎ労働者女性で、2006年3月15日に上海の病院に肺炎の症状により入院し、21日に死亡した。この症例は上海において報告された初めての症例である。この症例の感染源は調査中で、上海地区では2004年2月以来家禽のアウトブレイクは報告されていない。中国当局によると、女性の密接な接触者は医学的観察下におかれている。現在のところ中国はH5N1感染症症例16例を報告しており、そのうち11例が死亡している。
115	2006/4/26	60115	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	アメリカ、オーストラリア、カナダ	製造工程	有	無	有	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(39) 2005年9月30日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 18。今回報告終了日-2005年9月28日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-Colorado州Alamosa郡, Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日~2005年9月16日):ウマにおいて疑い例10例, 症例1例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例。-Montana州Carbon郡, Stillwater郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年8月28日~2005年9月14日):ウマにおいて疑い例9例, 症例6例, ヤギにおいて疑い例2例。-Wyoming州Big Horn郡, Fremont郡, Goshen郡, Hot Springs郡, Park郡, Platte郡, Sublette郡, Washakie郡の農場(15件)(アウトブレイクの開始日2005年8月21日~2005年9月15日):ウマにおいて疑い例84例, 症例15例, ウシにおいて疑い例855例, 症例7例, ヤギにおいて疑い例2例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(40) 2005年10月7日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 19。今回報告終了日-2005年10月2日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-Colorado州Delta郡, Mesa郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月5日, 2005年9月19日):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例30例, 症例1例-IIdaho州Bear Lake郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月16日):ウマにおいて疑い例14例, 症例2例, ウシにおいて疑い例360例-Utah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日):ウマにおいて疑い例7例, 症例1例-Wyoming州Bighorn郡, Carbon郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡, Platte郡の農場(13件)(アウトブレイクの開始日2005年9月12日~2005年9月24日):ウマにおいて疑い例393例, 症例15例, ウシにおいて疑い例2100例, 症例5例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED 2005年10月7日	2005年10月4日、ニューヨーク州Plum Islandの外來性動物疾患診断研究所は、ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある施設で飼育されていたウシ3頭で、初の水疱性口内炎New Jersey 株(VS-NJ) 感染症例を確認した。VS-NJウイルスは、発病した成牛3頭からの検体から分離された。これらの個体は、2005年ネブラスカ州で最初の水疱性口内炎症例である。加えて10月5日に、アイオワ州Amesの国立獣医学研究所は、ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある別の施設で飼育されていたウマについて、ウイルス分離により水疱性口内炎と診断確定した。問題の2施設は同じScotts Bluff郡内にあるが、それぞれは約24マイル離れている。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(41) 2005年10月14日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 20。今回報告終了日-2005年10月9日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-Colorado州Mesa郡, Montezuma郡, Ouray郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月18日, 2005年9月25日):ウマにおいて疑い例9例, 症例5例, ウシにおいて疑い例120例, 症例1例。Colorado州Big Horn郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月25日, 2005年9月28日):ウマにおいて疑い例48例, 症例5例。-Nebraska州Scotts Bluff郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月29日, 2005年9月30日):ウマにおいて疑い例6例, 症例1例, ウシにおいて疑い例61例, 症例3例。-Utah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月23日):ウシにおいて疑い例8例, 症例3例。-Wyoming州Bighorn郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡の農場(11件)(アウトブレイクの開始日2005年8月15日~2005年10月1日):ウマにおいて疑い例83例, 症例11例, ウシにおいて疑い例208例, 症例4例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(42) 2005年10月21日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 21。今回報告終了日-2005年10月16日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク-Wyoming州Bighorn郡Lovellの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月9日):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例。-Wyoming州Carbon郡Encampmentの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月4日):ウマにおいて疑い例5例, 症例1例。-Wyoming州Fremont郡Rivertonの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月29日):ウマにおいて疑い例3例, 症例1例。-Wyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月29日):ウシにおいて疑い例100例, 症例1例。-Wyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月30日):ウシにおいて疑い例37例, 症例2例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(43) 2005年10月28日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 22: 今回報告終了日-2005年10月23日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日。アウトブレイクの開始日-2005年4月16日。新規アウトブレイク-COLORADO州Delta郡Delta, Mesa郡Grand Junction, Montezuma郡Cortezの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月1日, 2005年10月5日): ウマにおいて疑い例7例, 症例2例, ウシにおいて疑い例55例, 症例1例。-Idaho州Caribou郡Graceの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月9日): ウマにおいて疑い例9例, 症例4例。-Montana州Big Horn郡St. Xavierの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月6日): ウマにおいて疑い例2例, ウシにおいて疑い例27例, 症例4例, ヒツジにおいて疑い例37例, ヤギにおいて疑い例1例。-Utah州Summit郡Oakleyの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月8日): ウマにおいて疑い例5例, 症例1例, ウシにおいて疑い例12例。-Wyoming州Big Horn郡Hyattville, Campbell郡Gillette, Carbon郡Encampment, Fremont郡のPavillion農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年9月24日~2005年10月10日): ウマにおいて疑い例23例, 症例4例, ウシにおいて疑い例350例, 症例2例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(44) 2005年10月30日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 23: 今回報告終了日-2005年10月30日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク-COLORADO州Delta郡Crawford, Mesa郡Grand Junctionの農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月17日, 2005年10月28日): ウシにおいて疑い例31例, 症例2例, ウマにおいて疑い例10例, 症例1例。-Nebraska州Scotts Bluff郡Lymanの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月12日): ウシにおいて疑い例16例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例251例。-Utah州Box Elder郡Park Valleyの農場, Duchesne郡Bluebell農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月20日, 2005年10月18日): ウマにおいて疑い例23例, 症例8例, ウシにおいて疑い例3例, ブタにおいて疑い例12例。-Wyoming州Big Horn郡Burlington, Carbon郡Encampment, Sweetwater郡McKinnenの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月12日~2005年10月16日): ウマにおいて疑い例58例, 症例2例, ウシにおいて疑い例470例, 症例8例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(46) 2005年11月18日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 24: 今回報告終了日—2005年11月13日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Eagle郡Burns, Garfield郡Rifle, Mesa郡Collbran, De Beque, Grand Junction, Montezuma郡Dolores, Ouray郡Ridgewayの農場(8件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日, 10月21日, 10月22日, 10月25日, 10月27日, 10月30日): ウシにおいて疑い例719例, 症例4例, ウマにおいて疑い例43例, 症例5例。—Montana州Big Horn郡Hardinの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日): ウシにおいて疑い例200例, 症例4例。—Wyoming州Natrona郡Casperの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月30日): ウマにおいて疑い例10例, 症例2例。—Wyoming州Park郡Powellの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月7日): ウシにおいて疑い例100例, 症例5例, ウマにおいて疑い例1例, 症例0例。—Wyoming州Sweetwater郡McKinnenの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月10日): ウシにおいて疑い例500例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(49) 2005年12月9日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 25: 今回報告終了日—2005年12月4日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例5例, 症例1例。—Colorado州Montrose郡Olatheの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月15日): ウマにおいて疑い例3例, ウシにおいて疑い例10例, 症例1例。—Wyoming州Johnson郡Kayceeの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月1日): ウマにおいて疑い例6例, ウシにおいて疑い例18例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例4例。—Wyoming州Natrona郡Evansvilleの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月6日): ウシにおいて疑い例47例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 27: 今回報告終了日—2005年12月31日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例222例, 症例3例。
												結核	ProMED20060201-0040	米国農務省USDAは、症例確認を受けて、ミネソタ州を家畜(ウシ)に結核の存在しない(TB-free)州の地位から降格させる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	カナダ Public Health Agency 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はカナダのウシにおける5例目のBSE症例を確認した。この発見により、カナダにおけるヒトの健康に対する新たなリスクはもたらされていない。vCJDに関するQ&Aとして、ヒトの健康に対するリスク、将来的にカナダにおいてvCJD症例は発生するか、マウスの臓器内でプリオンが確認された最近の研究がヒトの健康に関して意味するもの、などが記載されている。
												BSE	ProMED20060124-0040	カナダ食品監視局(CFIA)は1月23日、Albertaで産まれ育った6才雑種雌牛が狂牛病であることを確認した。当該牛のいかなる部分も食品や他の動物の餌にはなっていない。このウシは国家サーベイランスプログラムにより発見された。同プログラムにより2003年の第1例以来87000頭以上の牛が検査された。
												BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告では、米国産牛肉は非常に安全であることが強調された。
												BSE	FDA Statement 2006年3月13日	BSEの陽性の検査結果についての米国農務省(USDA)の発表に関する米FDAの声明。2006年3月13日の米国農務省(USDA)によるBSE陽性ウシの発見確定を受け、FDAは連邦当局および州当局と共同で、このウシが摂取した飼料の由来を調査している。USDAはこのウシが飼料もしくはヒトの食糧供給に入っていないことも確認したこと、最近FDAはヒトの食品および化粧品におけるウシの特定部分の使用を禁止する予防策を追加したことなどについて記載されている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	OIE Disease Information 19(11) 2006年3月16日	米国におけるBSE: (米国における前回のBSEのアウトブレイクがOIEに報告された日時: 2004年11月, および確定された日時: 2005年6月) 今回報告日-2006年3月13日。アウトブレイクの初回確定日-2006年3月13日。アウトブレイクの開始日-2006年2月27日。アウトブレイクの詳細-Alabama州の農場(アウトブレイクの開始日2006年2月27日): ウシにおいて疑い例50例, 症例1例, 処分1例。感染群-約50頭の肉用ウシおよび子ウシの群の肉用ウシ1頭(10才以上)。アウトブレイクの原因/感染源-不明もしくは結論に到達していない。その他の詳細/コメント-米国において報告されたBSEの2例目の確定例である。
116	2006/4/26	60116	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ソマトロピン(遺伝子組換え)	C127細胞株	スイス	有効成分	無	無	有			
117	2006/4/26	60117	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	英国、米国、カナダ、デンマーク	製造工程	無	無	有			
118	2006/4/26	60118	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	C127細胞株	マウス細胞	スイス	製造工程	無	無	有			
119	2006/4/26	60119	日本赤十字社	人血小板濃厚液	人血小板濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Tecknika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。